

持続可能な農業を立地特性と物理環境から考える

安中 武幸 教授 ANNAKA, Takeyuki



キーワード：立地特性，物理環境

専門分野：農地環境学

連絡先Email：annakt@tds1.tr.yamagata-u.ac.jp

研究内容

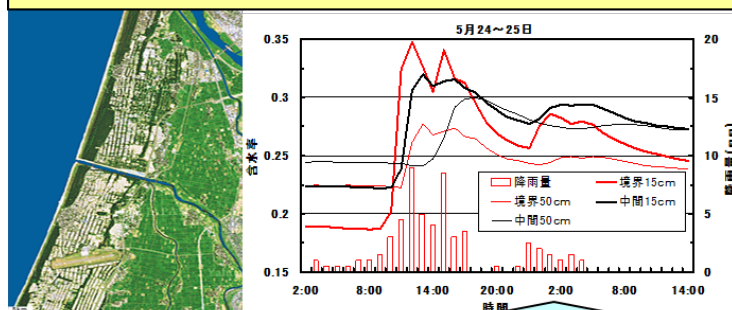
水田・畑地・樹園地などの農地においては、作物の生育・収量・品質を向上させるため、また様々な気象災害などを軽減・防止するために、土壌水分や温度など物理環境の制御技術が開発・導入されてきました。

しかし、持続可能な農業を展望するとき、農地の物理環境変動の実態とメカニズムをより深く理解するとともに、地域の立地特性を十分に考慮した技術体系を確立する必要があります。

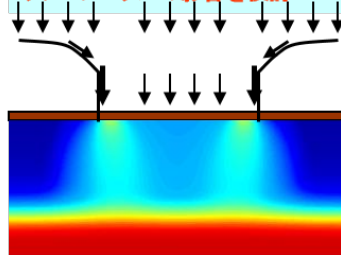
そこで、農地の物理環境変動の実態を把握しそのメカニズムを明らかにするとともに、地域の立地特性に関して、地域の自然史・人間活動との関わりをはじめとして、地域をシステムとして捉える手法の検討も行なっています。

庄内砂丘地農業の現状

- ・ 飛砂防止対策（黒マツ砂防林の整備）
 - ・ 水不足対策（地下水利用の灌漑設備）
 - ・ 環境制御・収益性確保（施設栽培拡大）
- 持続可能な砂丘地農業のあり方を考える



シミュレーションにより、水浸入へのハウスの影響を検討



土壌水分計を用いた変動実態把握

